

テーマ：「夢」をはぐくむ～確かな学力の向上と世界に羽ばたく人材の育成

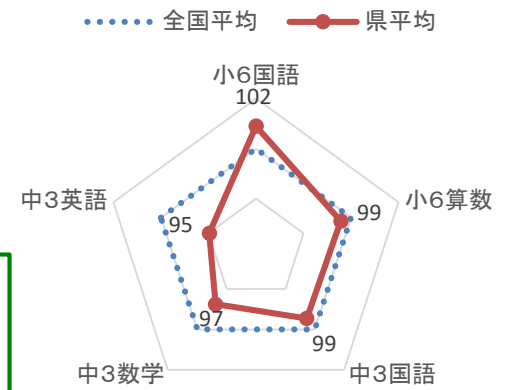
課題

- 全国学力・学習状況調査では、5項目中4項目で全国平均以下（平成31年度調査、対象は小中）。
- 大学等進学率は全国平均と比べて低い。（本県46.5%、全国54.7%）
- 英検3級相当の英語力を持つ本県中学3年生は、平成28年度の全国最下位から現在、全国20位。（40.8%：全国平均42.6%）
- 英検準2級相当の英語力を持つ本県高校3年生は、全国25位。（38.7%：全国平均40.2%）
- 海外高校への留学者数16人、海外大学への進学者数19人は、目標値に達していない。（目標値（R1：公私計）・海外高校への留学者数：20人/年、海外大学への進学者数：30人/年）

目指す姿（方向性）

- 全国学力・学習状況調査において、全ての項目で全国平均を上回るために、「学校・学級単位」から「児童生徒一人一人」に、「担任」から「組織的」な指導による「学力上位県」へ。
- A L T、オンライン英会話等を活用した、更なる英語コミュニケーション力の向上による「英語教育日本一」へ。

令和元年度全国学力・学習状況調査（全国平均＝100）



取組み内容（案）

I 確かな学力の向上

1 児童生徒の学力向上のための主な取組み

- 【小中】
- (1) 「熊本の学び」推進プランの策定
 - 学習効果の最大化、授業改善、家庭学習の充実等の推進
 - (2) 学力に課題のある学校への支援検討
 - (3) 「熊本県学力・学習状況調査」の実施
 - 児童生徒一人一人の理解状況を分析し、課題に応じたアドバイスと学習プリントを提供
 - (4) 小学校における教科担任制の充実強化

- 【高校】
- (5) 県による学力調査の導入検討
 - (6) 個別学習支援システムの拡充
 - 学習習慣や学習履歴等を把握し、各高校でP D C Aサイクルを確立

2 教員の指導力向上のための主な取組み

- (1) スーパーティーチャー（S T）の増員検討（小学校5人、高校13人）
- (2) 教育事務所、教育センター、市町村教委等による学力向上のための指導体制の充実強化
- (3) ミドルリーダー育成のための教員研修充実
- (4) スクールロイヤー等の外部人材の積極的な活用検討

II 世界に羽ばたく人材の育成

1 児童生徒の英語力向上のための主な取組み

- 【小中】
- (1) 中3生の英検チャレンジ支援
 - 英語検定受験料を1/3補助する市町村に、受験料の1/3を補助
 - (2) 海外の大学や高校、外国人講師の「オンライン英会話」の導入支援の検討

- 【高校】
- (3) 高校生の英語チャレンジ支援検討
 - 英語民間試験の受験料補助の検討
 - (4) 県立学校A L Tの更なる増員検討
 - 小規模校、専門高校にもA L Tの配置検討
 - (5) 即興型英語ディベート等による発信力の向上

- 【共通】
- (6) 熊大等の留学生等、地元の人的資源の積極的な活用

2 教員の英語力向上のための主な取組み

- (1) S T、英語教育推進リーダー等を活用した研修の開催
- (2) 小中学校英語担当教員全員研修の開催

テーマ：「夢」を拓げる～県立高校の未来を考える・そのあり方と特色づくり

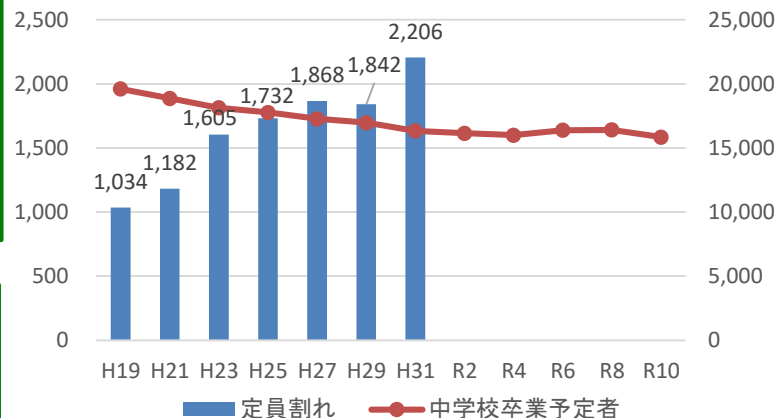
課題

- H31の定員割れの状況は、県立高校50校中36校で2,206人。(H19:1,034人)
※熊本市内の公立高校の充足率:100.5% その他の公立(県立)高校の充足率:71.1%
- 中学卒業予定者はR2.3月卒は16,155人だが、R3の15,721人を底に、R9まで16,000人超が続く。
- 私立高校を選択して進学する生徒の割合が、10年前と比べて増加。
※私立:公立=3:7(H21) ⇒ 私立:公立=3.6:6.4(H31)

目指す姿(方向性)

- Society 5.0や国際化等の新しい時代のニーズに応える県立高校づくりへ。
- 地方創生と一体となった「一校一特色づくり」の展開へ。
- 小規模校のICTを活用した遠隔授業等の実施や、教育環境格差の解消へ。

中学校卒業予定者推移、県立高校定員割れ



取組み内容(案)

I 新しい時代のニーズに応える特色ある学校づくり

1 特色ある学校づくり

- (1) 県立高校の今後の方向性についての検討
○外部からの意見も聴取して、県立高校の今後の方向性について検討。
- (2) WWL等の国研究指定事業への積極的取組み
【WWL:高校と大学、企業等の協働により、国際的で高度な学びの構築】
- (3) 新しい学科、コースの設置に向けた検討
- (4) 県立高校魅力創造発信事業の充実
○学力、スポーツ、文化、就職等の各分野での特色づくり(一校一特色づくり)
○地域・社会に開かれた魅力ある学校づくりアンケート調査の活用
(例:島根県海士町の隠岐島前高校の魅力化に携わる法人が作成に関わったアンケート調査を実施)
- (5) 国際バカロレア校等の設置に向けた検討
【国際バカロレア:世界標準の教育プログラム、国際的な入学資格を付与】
- (6) 県立学校の長寿命化対策に係る計画策定

II ICTの活用による学校の活性化と地域間格差の解消

1 ICTを活用した地域間の教育格差の解消

- (1) ICTを活用した小規模校の教育充実
○スーパーティーチャー、ALT等、ICTを活用した遠隔授業を実施。
- (2) SINET(大学、研究機関間のネットワーク)の活用した授業

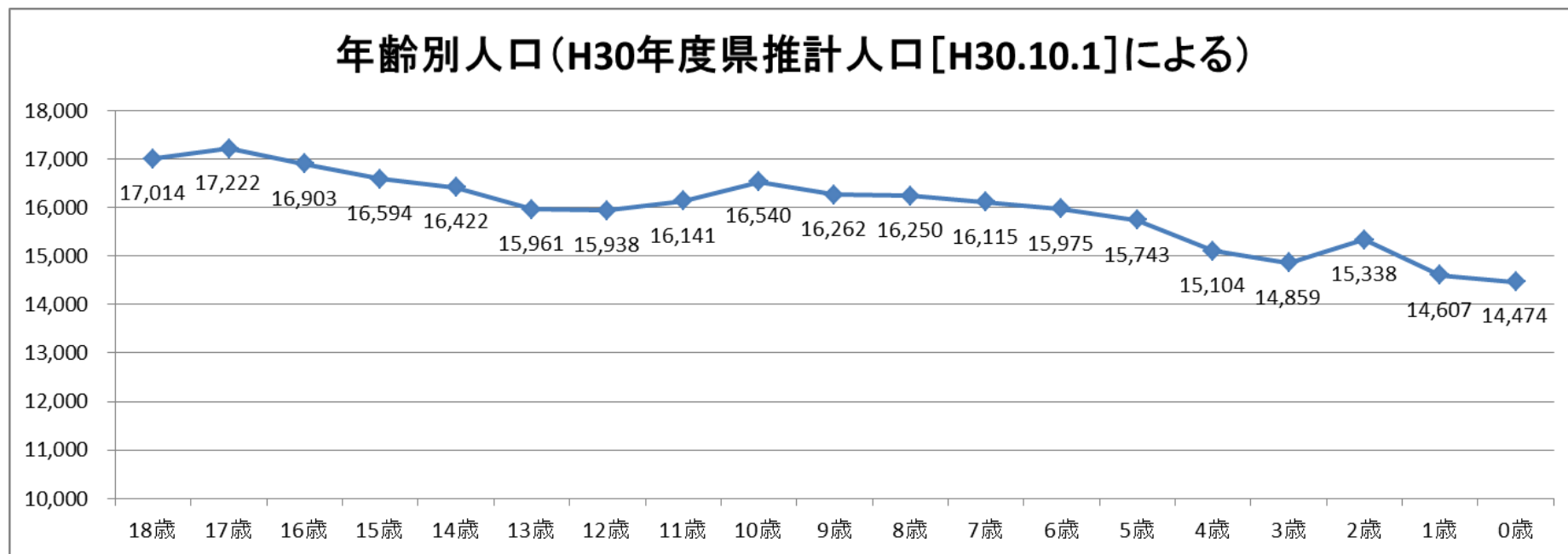
2 学校におけるICT環境の整備の推進

- (1) ICT環境整備の推進
○県立学校の全ての普通教室に学習者用パソコン(1人1台へ)、大型提示装置、ネットワーク環境(無線LAN等)の整備を推進。
- (2) デジタル教科書の指導者への導入検討

2 大学との連携強化

- (1) 熊大、県立大等との連携強化
○遠隔講義、出前講座等の実施、スーパーハイスクール等への支援

参考資料：年齢別人口



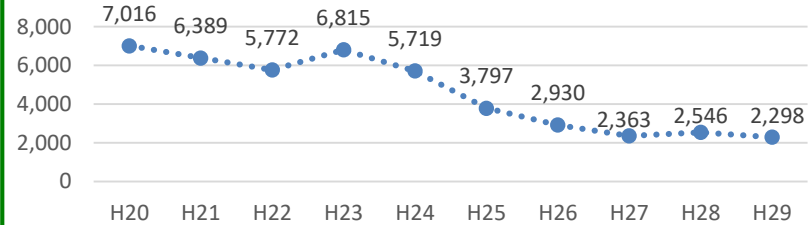
おおむね令和11年以降の中学校卒業予定者数

テーマ：「夢」を支える～専門家等と連携したいじめ・不登校対策の推進

課題

- H29 いじめの認知件数は、小学校1,032件、中学校801件、高校397件、特別支援学校68件、計2,298件。
- 高校生のスマートフォン所持率は9割超。SNS上のいじめは陰湿化しやすい。
- H29 不登校児童生徒数は、小学校437人、中学校1,456人、高校479人、計2,372人。不登校の合計人数は10年前とほぼ同数だが、小学校で倍増。スクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）との早期連携による一層の総合的支援が必要。

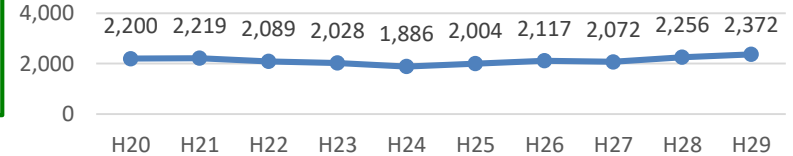
いじめ認知件数(公立小中・高・特支)



目指す姿（方向性）

- 子供たちの安全・安心を確保するため、警察や児童相談所等の関係機関や、SC・SSW、弁護士等の専門家との連携強化による未然防止、的確な初期対応。

不登校児童生徒数(公立小中・高)



取組み内容（案）

I いじめ等への対応

1 組織的な対応によるいじめ等の未然防止

- (1) 不安や悩みの解消とストレス対処
 - 心のケアサポート会議の継続。
 - 「SOS出し方に関する教育」の推進と教師の対応力向上。
 - 学校非公式サイト等の検索・調査・削除の実施。

2 専門家と連携したいじめ等への早期対応の充実

- (1) 通報窓口アプリの活用による早期発見・早期対応
- (2) SC・SSWとの連携
 - SC・SSWの拡充を目指すとともに、SCのスーパーバイザー制度を整備。
- (3) いじめ対策緊急支援チームの活用
 - 解決が困難ないじめ事案について、弁護士や臨床心理士、社会福祉士等の専門家を派遣し、早期解決に向けた支援を実施。
- (4) スクールロイヤーの導入検討
 - いじめや虐待等に関する保護者とのトラブルを未然に防止できるよう、学校が弁護士に相談しながら対応できる体制を整備。

II 不登校への対応

1 チームによる校内支援体制の強化

- (1) 「愛の1・2・3運動+1（プラスワン）」による早期対応
- (2) 定期的な不登校支援会議（ケース会議）の開催

2 小・中・高等・特別支援学校の連携強化

- (1) 進学時の確実な情報共有

3 専門家や関係機関・関係団体と連携した不登校対策

- (1) SC・SSWとの連携（再掲）
- (2) 教育支援センター(市町村が設置する不登校支援機関)との連携
 - 新規設置や機能拡充に向けた財政支援。
- (3) 熊本県子供の居場所づくり推進連絡協議会の開催
 - 不登校や引きこもり等を支援するフリースクール等の民間団体や医療・福祉等の各種機関、SC・SSWと市町村や県の行政関係者が連携した支援体制を構築。